

報道関係者各位

十和田市現代美術館 2019年度 春夏の企画展

〈「地域アート」はどこにある?〉プロジェクト

ウソから出た、まこと - 地域を超えていま生まれ出るアート

2019年4月13日(土) - 9月1日(日)

図版1
ポスタービジュアル

地域の人々との共同作業による美術の活動が、いま日本では数多く行われています。当館が昨年から取り組んでいる〈「地域アート」はどこにある?〉プロジェクトは、そういった表現の多様さ、そこにある課題、可能性をひもといいていく試みです。本展はこのプロジェクトの一環として、地域の人々と共に実験的な活動を続けてきた三組の作家、北澤潤、Nadegata Instant Party、藤浩志による新作を、美術館内外で展示します。

芸術の常套手段である虚構、フィクションをコミュニティに持ち込むことで、現実を鮮やかに動かしていく、作家たちの実践をご覧ください。

【 展示の見どころ 】

1. インドネシアの乗り物が十和田のまちを走る (北澤潤)
2. コミュニティの人々とVR作品を作り上げる (Nadegata Instant Party)
3. 自身をモデルにした小説で、「地域とアート」の源流を探る (藤浩志)

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 出展作家・作品紹介 】

1. 北澤 潤

自身の活動拠点であるインドネシアの乗り物を持ち込み、来館者に貸し出すプロジェクトを行います。“他国の乗り物”という仕掛けが、エラーやバグのように突如としてまちに現れ、生活になじみはじめるとき、歴史と文化が共鳴し、私たちが当たり前とと思っていた日常も揺るがされるでしょう。この企画は市民と共同で運営され、まちを「活性化」する実験としての側面を持ちます。

作家メッセージ

2018年6月に初めて十和田を訪れ、その後も雪に包まれた冬に二度滞在しました。いま生活の拠点にしているインドネシアからたどり着くと、小さな時差と大きな温度差のせいで、近いような遠いような、ふとどこにいるのかよくわからなくなります。またときどき訪れる中でこの感覚に慣れていくのかもしれませんが、今回、新たに取り組むプロジェクト《LOST TERMINAL》は、インドネシアの路上を行き交うさまざまな乗り物を持ち込み、街の中で乗ったり活用したりできる状況を生み出していきます。十和田市現代美術館の屋外空間が「発着場—ターミナル」となり、あちこちに異国の乗り物が出発した帰ってきます。乗ったり、目撃したり、使ったりすることで、その行き来をぜひ実体験してみてください。日本のようで日本でない、かといって当然インドネシアでもない、どこにいるのかよくわからなくなる感覚が生まれるかもしれません。僕自身の感覚と同じように、異質な乗り物たちもこの春から夏にかけて、十和田の街に慣れ親しんでいくのでしょうか。その先にある新しい日常を見てみたいと思っています。

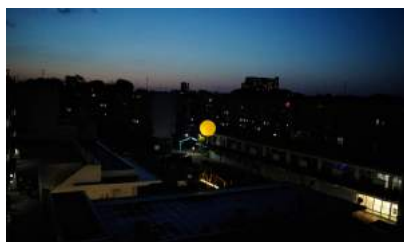


図版2 photo by CULTURE

北澤 潤 きたざわ・じゅん

美術家。1988年東京生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。合同会社北澤潤八雲事務所代表。さまざまな国や地域でのフィールドワークを通して「ありえるはずの社会」の姿を構想し、多様な人びととの立場を越えた協働によるその現実化のプロセスを芸術実践として試みる。2016-2017年、国際交流基金アジアセンターフェローシッププログラムでインドネシアに滞在。現在、ジョグジャカルタを拠点に活動している。

過去の作品・プロジェクト例



サンセルフホテル

地域の空き部屋を手づくりの「客室」に変え、一泊分の電力を地域産の太陽光エネルギーによって賄う、不定期出現型ホテル。宿泊客はチェックインしたあと、日中ホテルマンと共に特製の太陽光発電ユニット「ソーラーワゴン」で周囲を散策しながら、地域産の電気を蓄電する。ホテルマンは地域住民。日が暮れた頃、貯まった電気を使って上空に浮かべた「太陽」を光らせ、余りの電力で客室に必要な電気をまかなう。

図版3 北澤 潤 《サンセルフホテル》photo by Yuji Ito (参考画像)



リビングルーム

商店街の空き店舗にカーペットを敷き、周囲の家を訪ねて不要な生活用品を集めていく。ひとつひとつの品をカーペットの上に配置し、地域のどこにでもある居間のような空間をつくりあげ、地域住民が自宅にある生活用品と物々交換できる場所としてひらく。品が集まるにしたがっていろいろな人々が、自宅のリビングルームで行うような行為（ソファに座る、本を読む、テレビをみる、料理をする等）をし始める。物々交換をとおして内装は日々変化しつづけ、それに合わせて「リビングルーム」の活動も予測できない変化をつづける。

図版4 北澤 潤 《リビングルーム》photo by Yuji Ito (参考画像)

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

2. Nadegata Instant Party

Nadegata Instant Party は2006年の結成以来、日本全国各地でその地域の人たちを巻き込みながら、思いもよらない出来事を生み出してきた伝説のアートユニットです。今回は公募で集まった一般参加者とともに、VR（ヴァーチャル・リアリティ）体験をテーマにした新作プロジェクトを行います。その場で偶発的に起こっていく反応を参加者全員で楽しみながら、最初は誰も予想できなかった成り行きを、作品という形で提示します。

作家メッセージ

私たち Nadegata Instant Party は、2006年の結成以来、全国各地でプロジェクト型の作品を発表してきました。それぞれの場所や人に出会い、その状況そのものに大きく影響を受けながら作品制作をしています。「本末転倒型オフビートユニット」と揶揄されるほどに、自分たちが掲げた口実に自らも巻き込まれ、起こってしまった現実がイメージを超えてしまうようなことが幾度もあり、活動そのものがまさに「ウソから出た、まこと」だったりします。十和田市現代美術館での新作発表にあたり、私たちがテーマに掲げたのは「VR」、そう「ヴァーチャル・リアリティ=仮想現実」づくりです。ウソみたいな現実？現実みたいなウソ？目の前に起こる出来事とフィクションが展示室で混ざり合う、映像と音響と空間をつかった体験型の作品を構想しています。徐々にではありますが、十和田界隈の個性的な顔ぶれに出会い始めてきた今日この頃です。とりあえず、大量にいただいた「黒にんにく」をかじりながら盛大な本末転倒を巻き起こしていきたいです。



図版5

ナデガタ インスタント パーティ Nadegata Instant Party (中崎 透+山城 大督+野田 智子)

中崎透、山城大督、野田智子の3名で構成される「本末転倒型オフビートユニット」。2006年より活動開始。地域コミュニティにコミットし、その場所において最適な「口実」を立ち上げることから作品制作を始める。口実化した目的を達成するために、多くの参加者を巻き込みながら、ひとつの出来事を「現実」として作りあげていく。「口実」によって「現実」が変わっていくその過程をストーリー化、映像や演劇的手法、インスタレーションなどを組み合わせながら作品を展開している。

過去の作品・プロジェクト例



24 OUR TELEVISION

24時間だけ開局するインターネットテレビ局を青森市約100人の市民スタッフと共に制作。ギャラリーにスタジオを設営し、カメラマン、スイッチャー、AD、司会、演出、そのほとんどを素人が務めた。それは生放送であると同時に24時間のライブパフォーマンスでもあったと言える。視聴数は延べ8000を越えた。

図版6 Nadegata Instant Party (中崎 透+山城 大督+野田 智子)

《24 OUR TELEVISION》2010年 青森公立大学 国際芸術センター青森

©Nadegata Instant Party (参考画像)



Yellow Cake Street

「オーストラリアに古くから伝わる」家庭料理『イエローケーキ』の伝承を架空に設定し、地元シェフや市民と共にあたかも「本当に」あるようにケーキのレシピを考案。レシピを元に期間限定のケーキ店『Yellow Cake Street』を展示会場に開業させる。そのプロセスを追ったフィクション・ドキュメンタリーも会場内で上映。ナデガタ初の海外プロジェクト。

図版7 Nadegata Instant Party (中崎 透+山城 大督+野田 智子)

《Yellow Cake Street》2011年 「Alternating Currents -Japanese Art After March 2011」 Perth Institute of Contemporary Arts (PICA), Australia

©Nadegata Instant Party (参考画像)

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

3. 藤 浩志

1980年代より参加者が自発的に事を起こすようなシステムや仕組みを社会にインストールする、OS(オペレーション・システム)と自らが呼ぶ作品を創出し続けてきました。本展では十和田市現代美術館と協働で自身をモデルにしたある作家の活動を小説化し、同時に実際の活動の痕跡を展示にします。一人の作家の思考プロセスを通して、社会や歴史の動きと連動して出て来た「地域」と「アート」に関わる表現領域の意味を、私たちは知ることになるでしょう。

作家メッセージ

「もっと画期的なことせな！」嶋タケシの大学時代の友人、レイイチの口癖でした。芸術大学の学生は古今東西のあらゆるジャンルの作品に心奪われ、それを作りたいと真似し追いかけることから始まるのですが、あるところまでゆくと、これまで見たこともない、まだ世の中に存在しない作品を作らなければならなくなります。それを越えることができるかどうかは問題です。ああ懐かしい。私自身は、ありそでなさそな新しい活動をどうやれば作れるのかという課題について、自分の体と家族の生活を犠牲にしつつも、実はかなり楽しみながら取り組んできました。活動がつくられるシステム、場、ツール、関係性等様々な角度から実践を重ねる中で、2003年に十和田を初めて訪れました。中央公民館で家族向けイベントかえっこを開催、そこでアートに関するアンケート調査を実施、その結果2008年十和田市現代美術館が開館。2012年から4年間十和田を活動の拠点とし、美術館の運営に関わらせていただきました。その時熟成した十和田奥入瀬での活動のアイデアはいろいろあるのですが、それは将来の課題とし、今回は活動家、嶋タケシの右往左往について小説とミニ立体絵巻として小さく展開したいと思います。で、嶋タケシって誰だ！



藤 浩志 ふじ・ひろし

美術家。1960年鹿児島生まれ。京都市立芸術大学大学院修了。パプアニューギニア国立芸術学校講師、都市計画事務所、藤浩志企画制作室、十和田市現代美術館館長を経て秋田公立美術大学大学院教授、NPO法人アーツセンターあきた理事長。国内外のアートプロジェクト、展覧会に出品多数。1992年藤浩志企画制作室を設立し「地域」に「協力関係・適正技術」を利用した手法でイメージを導き出す表現の探求をはじめ。

図版8 photo by Kuniya Oyamada

過去の作品・プロジェクト例



Kaekko

「かえっこ」はいらなくなったおもちゃを使って地域に様々な活動を作り出すシステムとしてのプロジェクト。日本だけでなく各国で展開されている。子ども達のコミュニケーションを図るだけでなく、教育、遊び、環境、リサイクル、商店街活性化、地域活動、国際交流など、主催者や参加者の問題意識や場所の力によって様々に変化する。

図版9 藤 浩志《kaekko project》2002年 山梨県立美術館（参考画像）



Happy Paradies

「Kaekko」の中で大量に集まったおもちゃを、素材として制作したインスタレーション作品。水都大阪2009の中の島会場の時に生まれ、日本だけではなく、各国で展開されている。

図版10 藤 浩志《Happy Paradies》2015年 金沢21世紀美術館（参考画像）

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 関連イベント 】 ※イベントの日時、内容は変更される場合があります。最新情報は随時Webサイトでご確認ください。

■オープニングトーク

本展覧会作家の北澤潤、Nadegata Instant Party、藤浩志が創作活動や作品について語ります。

日 時：4月13日（土）14：00 - 15：30

会 場：十和田市現代美術館 市民活動スペース / 料 金：無料 ※要企画展チケット

■クロストーク

様々な立場から、“表現”や“地域”について考察し、それぞれの射程を探ります。

第1回：7月28日（日）「美術館ではない場所で」

登壇者：日比野克彦（アーティスト/東京藝術大学 美術学部長）、中村政人（アーティスト/3331 Arts Chiyoda 統括ディレクター/東京藝術大学 教授）、木ノ下智恵子（アートプロデューサー/大阪大学共創機構社会学共創本部 准教授）、小池一子（十和田市現代美術館 館長）

第2回：8月17日（土）「まちを拡張する」

登壇者：山出淳也（NPO法人BEPPU PROJECT 代表理事/アーティスト）、高須咲恵（アーティスト/SIDECORE 代表）、小川希（Art Center Ongoing 代表/TERATOTERA ディレクター）

第3回：8月31日（土）「コミュニティと共に企てる」

登壇者：山崎亮（studio-L 代表/コミュニティデザイナー/社会福祉士）、北澤潤（美術家/本展覧会作家）、ミヤタ ユキ（十和田市現代美術館 普及事業マネージャー）

第4回：9月1日（日）「地域アートはどこにある？」

登壇者：星野太（美学/表象文化論）、金澤韻（十和田市現代美術館 学芸統括）

時間：14:00-16:00（7/28のみ 14:00-16:30） / 会場：市民活動スペース / 料金：無料※要企画展チケット

■duenn・Nyantaro・津田翔平・谷川俊太郎ライブ

十和田市出身で元スーパーカーのナカコーによるアンビエントプロジェクトNyantora、三沢市出身のエレクトロニクス・コンポーザーduenn、現代美術家の津田翔平による一夜限りのライブパフォーマンスを開催します。

※詩人・谷川俊太郎は音声のみの出演となります。

日 時：8月17日（土）19：00 - 20：00

会 場：十和田市現代美術館 休憩スペース・カフェcube / 料 金：有料 ※詳細は後日 web サイトで公開します。

【 開催概要 】

展覧会名 「ウソから出た、まことー地域を超えていま生まれ出るアート」

会 期 2019年4月13日（土） - 9月1日（日）

レセプション 2019年4月13日（土）17:30 - 19:00

開館時間 9:00 - 17:00（入場は閉館の30分前まで）

休 館 日 月曜日（祝日の場合はその翌日）ただし、2019年4月22日（月）、30日（火）、7月29日（月）、8月5日（月）、13日（火）は臨時開館。

会 場 十和田市現代美術館

観 覧 料 企画展+常設展セット券1200円。企画展の個別料金は一般800円。
団体（20名以上）100円引き。高校生以下無料。

主 催 十和田市現代美術館、十和田市

後 援 東奥日報社、デーリー東北新聞社、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、十和田市教育委員会

企 画 金澤韻、里村真理、見留さやか、ミヤタユキ

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 広報用図版 】

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、申込みフォームの項目をご記入の上、本用紙を FAX または E-mail にてお送りください。

FAX : 0176-20-1138 / E-mail : press@towadaartcenter.com

TEL : 0176-20-1127 / 住所 : 034-0082 青森県十和田市西二番町 10-9

十和田市現代美術館 広報 大谷 行

<input type="checkbox"/> 図版 1  ポスタービジュアル	<input type="checkbox"/> 図版 2 (ポートレート)  北澤 潤 photo by CULTURE	<input type="checkbox"/> 図版 3  北澤 潤 《サンセルフホテル》 photo by Yuji Ito (参考画像)	<input type="checkbox"/> 図版 4  北澤 潤 《リビングルーム》 photo by Yuji Ito (参考画像)
<input type="checkbox"/> 図版 5 (ポートレート)  Nadegata Instant Party (中崎 透+山城 大督+野田 智子)	<input type="checkbox"/> 図版 6  Nadegata Instant Party (中崎 透+山城 大督+野田 智子) 《24 OUR TELEVISION》 2010年 青森公立大学 国際芸術センター青森 ©Nadegata Instant Party (参考画像)	<input type="checkbox"/> 図版 7  Nadegata Instant Party (中崎 透+山城 大督+野田 智子) 《Yellow Cake Street》2011年 「Alternating Currents -Japanese Art After March 2011」Perth Institute of Contemporary Arts (PICA), Australia ©Nadegata Instant Party (参考画像)	<input type="checkbox"/> 図版 8 (作家ポートレート)  藤 浩志 photo by Kuniya Oyamada
<input type="checkbox"/> 図版 9  藤 浩志 《kaekko project》2002年 山梨県立美術館 (参考画像)	<input type="checkbox"/> 図版 10  藤 浩志 《Happy Paradies》2015年 金沢 21世紀美術館 (参考画像)		

媒体名 _____

媒体ジャンル 新聞/雑誌/美術誌/テレビ/WEB/その他 (_____)

御社名 _____

御担当者名 _____

所在地 〒 _____

電話 _____

メールアドレス _____

【 画像ご使用に際して 】

- クレジットは全て明記してください。
- トリミングはご遠慮ください。
- キャプション等の文字が画像に被らないよう、レイアウトにご配慮ください。
- ご掲載の際は恐れ入りますが校正の段階で美術館までご確認ください。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報 : 大谷 (おおたに)

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com